

平成28年度

運営に関する計画

(最終評価)



大阪市立堀川小学校

大阪市立堀川小学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 年間指導計画をもとに授業づくりを行ったが、6 学年を見通した系統的な付けたい力はまだ明確になっていない。また、財産となった資料や学習指導材も次に生かすために整理と保管が必要である。さらに、児童の読書量には個人差がある。以上のような現状と課題を解決するためにも、継続して研究活動を深めていく必要がある。
- あいさつについては、“誰に対しても”、“場に応じた”ものにはなっていない現状である。また、配慮をする児童の増加による人的配置も必要であるが、難しい状況もあり、サポート体制を工夫するなど個に応じた指導の必要がある。
- 工事に伴う運動場の使用制限によって児童の体力の低下が懸念される。また、年間を通して安全だけがの少ない生活を送れるようにしなければならない。
- 幼小連携は、打ち合わせを大切にしたが、反省を次に生かせるようさらなる時間の確保も必要である。また、マーチングについても狭い運動場のなかでも地域や保護者の期待に応えるよう、児童に充実感を与えられるようにしていかなければならない。

中期目標

【学力の向上】

- 国語科を中心とした言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行うとともに、児童の言語力や思考力・判断力・表現力の育成を図る。無答をなくし、全国学力・学習状況調査の国語科問題B の全ての設問に対して全国平均を上回るようにする。
- 児童の読書環境の充実に向け、学校図書館の活性化を図る。家庭読書を啓発したり、図書館ボランティアを活用したりすることにより、読書好きの児童を増やすため、事前に「読書好き」「読書量」等の調査を実施し、その割合を確実に増やす。
- 授業研究会を計画的に実施し、授業力を高める。『質の高い言語活動』を通して、学習の目標を達成していく。

【道徳心・社会性の育成】

- 児童相互の人間形成をつくるため、児童の状況に応じた多様な支援に取り組む。児童一人一人が場に応じた挨拶ができるようにする。実態調査を適宜実施し、評価を明確にする。
- 不登校児童など配慮をする児童に対する研修に校内外で参加し、組織立てた取り組みを計画的に実施していく。
- 仲間づくりの場を大切にし、学級活動や児童集会活動（縦割り活動を含む）等を充実させる。そのため、児童の意識調査を適宜実施する。
- 対象者が増える特別支援教育を充実させ、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者と共に作成していく。個別の指導計画に基づいた指導を充実させ、生活の自立に対して保護者と共に評価できるようにする。

【健康・体力の保持増進】

- 児童数の増加、狭い運動場にも対応できる体育科授業と体育的な行事を通して、体力調査で全国平均を下回る種目について、全学年で向上させる。
- けがの予防に努め、前年度の実績を元にけが発生率を抑える。
- 健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、「早寝、早起き、朝ごはん」等の実践力を高める。

【本校の特色と課題の克服】

- 保護者や地域住民をはじめとする学校関係者の協力を得ながら、伝統あるマーチングをより本校らしい特色あるものに創作する。
- 併設する幼稚園と連携を密にし、幼児教育の研修を深め、小学校教育に生かす。
- 学校の校内の美化を計画的に推進し、保護者や地域住民より、美しい学校と称賛されるようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【学力の向上】

- 児童の言語力や思考力・表現力の育成を図る。
- 児童の読書量を増やす。
- 校内研究教科である道徳科をはじめ、様々な教科において言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行う。議論し合う道徳科の授業を通して、自分の考えを伝え合う力を育む。
- 全学年で英語活動モジュールタイムを実施する。

【道徳心・社会性の育成】

- 「学校生活のきまり」を守って生活できるように取り組む。すすんであいさつできる児童を育てる。
- 配慮を要する児童に対する校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。
- 道徳教育の年間計画を作成し、指導方法の工夫・改善を行う。
- たてわり班活動を活発に行い、たてわり班長を中心とした活動の充実を図る。

【健康・体力の保持増進】

- 児童数の増加、狭い運動場にも対応できる体育科授業と体育的な取り組みを通して、すすんで体力作りに取り組む児童の割合をふやす。
- けがの予防に努め、前年度の実績よりけがの発生率を抑える。
- 健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、残さず食べようとする意識を高める。

【本校の特色と課題の克服】

- 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する。
- 充実した小中連携の取り組みを工夫する。
- 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

本校では、長年にわたり言語力の育成をめざして、子どもたちが自分の意見をもち、それを上手く伝えることができるスキルを身に付けるため、書く活動やペアやグループでの話し合い活動などを積極的に取り入れた授業展開を進めてきた。それら継続した取組の結果、本年度も全国学力・学習状況調査の結果において、国語・算数のそれぞれの教科において全国平均を上回っている。特に活用については全国平均を大きく上回った。また、大阪市学力経年調査においても、分類別項目の基礎・基本と活用の双方において大阪市平均を上回っている。

「読書好き」「読書量」を増やすことについては、朝の一斉読書の継続や読書通帳の活用、学校図書館の開館時間の増加により子どもたちの読書への意欲が高まった。「読書が好き」と肯定的な回答をした子どもたちの割合は、全国学力・学習調査では81%と全国平均を上回るとともに、全校児童アンケート(636名対象)でも87%となっている。

本年度から、全学年で英語活動モジュールタイム(10~15分間)を年間20回実施し、低学年からの英語指導に踏み切った。3・4年生にも校長戦略支援経費によるネイティブティーチャーの指導を導入し力を入れてきた。その結果、英語活動に関する全校児童アンケート(636名)では89%以上の児童が「英語活動が楽しい」と答えている。

【視点 道徳心・社会性の育成】

子どもたちにとって楽しいいた割り班活動とあいさつの習慣化に取り組んできた。週1回のたて割り班活動での児童集会や遊び、全校遠足を通して思いやりの育成や仲間づくりを継続して進めてきた。その結果、児童アンケートで「たてわり班活動が楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は90%、「進んであいさつができた」が90%と目標を上回る結果であった。

また、今年度は、研究を道徳とし年間20回を超える授業研究を実施してきた。子どもたちの中からは道徳の時間は自分の考えていることを聞いてもらえて楽しいという声も聞かれている。

配慮をする児童については毎月の連絡会を実施することで、教職員で共通理解し組織的な取組みができた。また、保護者、特別支援学級担任、学級担任で「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」を確認し、より充実した教育活動を行うこともできた。

【視点 健康・体力の保持増進】

本年度は堀川幼稚園解体に伴う運動場拡張工事のため3分の1減の狭い運動場となった。そんな中で、なわとび運動とかけ足運動、体幹を鍛える運動の導入力を入れて取り組んだ。なわとび運動では、新しく堀川進級表を作成するとともに、外部講師(専門退職校長・大学教授)を招き全学年でなわとび指導を実施した。また、本校オリジナルの体幹を鍛える運動を普段の体育時間に取り入れたり、堀川子どもロコモ体操を作って各学級で取り組んだりした。効果が表れるまでには継続した取り組みが必要であるが、礎は築くことができた。

【視点 本校の特色と課題の克服】

本校の伝統ある6年生全員参加の堀川マーチングには、外部講師と本校教員とのコラボレーションで全校児童・保護者・地域住民に披露する形で実施することができた。オーデションを含めて1年間かけてつくり上げていくものであり、子どもたちの達成感も高い。児童アンケート(6年84名)では「目標をもって取り組めた」が92%、「取り組んでよかった」が86%と目標値を上回る結果であった。また、校内美化においても児童アンケート(636名)「学校を美しくするために、掃除を頑張っている」の肯定的回答が96%と目標値の70%を大きく上回った。

大阪市立堀川小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 児童の言語力や思考力・表現力の育成を図る。</p> <p>② 児童の読書量を増やす。</p> <p>③ 校内研究教科である道徳科をはじめ、様々な教科において言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行う。議論し合う道徳科の授業を通して、自分の考えを伝え合う力を育む。</p> <p>④ 全学年で英語活動モジュールタイムを実施する。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【言語力と論理的思考力の育成】</p> <p>各教科指導において、話し合い活動や説明活動を多く取り入れるとともに、自分の考えを記述して表現する活動を充実させる。 （マネジメント改革）</p>	A
<p>指標</p> <p>大阪市小学校学力経年調査の記述式設問(活用問題)において、正答率が大阪市平均を上回るようにする。</p>	
<p>取組内容②【読書力の育成】</p> <p>読書通帳を活用し、児童の読む意欲を高める。図書館コーディネーターと協力して、読書クイズなどを行い、本に親しむ活動の機会を作る。 （カリキュラム改革）</p>	A
<p>指標</p> <p>「学校アンケート」において、読書が好き、どちらかといえば好きと答える児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【授業研究の充実】</p> <p>全学年で計画的に授業研究を実施し、指導力の向上に取り組む。 授業研究、公開授業を合わせて年間20回以上実施する。 （マネジメント改革）</p>	B
<p>指標</p> <p>「学校アンケート」において、友だちの前で自分の考えや意見を発表するのが好き、どちらかといえば好きと答える児童の割合を60%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【伝え合う力の育成】</p> <p>全学年で英語活動モジュールタイムを実施し、簡単な英語を使ってコミュニケーションをしようとする子どもを育む。 （カリキュラム改革・グローバル改革）</p>	A
<p>指標</p> <p>「学校アンケート」において、「外国語活動が楽しい、どちらかといえば楽しい」という児童の割合を全学年で70%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 話し合い活動や説明活動は各学年、学級で積極的に指導を行ってきた。日々の授業でもノートやワークシートに自分の考えを記述して表現する活動も多く取り入れて指導を重ねてきた。しかしながら、児童の個人差が大きいこと、さらには、書くことに抵抗のある児童も見受けられる。
- ② 大阪市学力経年調査(3～6年対象・4教科)では、4学年4教科の問題分類別項目の基礎・基本及び活用の2項目の計32項目中、4年の社会科の活用1項目が大阪市平均と同じ、その他の31項目において大阪市を上回る結果であった。
- ③ 「読書が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は87%であり指標を達成した。読書週間や表彰の取り組み、夏休みの図書館開放、昼休みの委員会による開放の効果も大きいと思われる。読書通帳については有効に活用できている児童とそうでない児童による差がある。
- ④ 授業研究、公開授業合わせて23回実施し、計画通りに行うことができた。研究討議会では講師先生を招いて、道徳の指導に関する研修の時間を多く持った。その成果により、道徳の指導のノウハウが蓄積され、指導力の向上につながっている。今年度の研究主題である「自分の考えを伝え合う力の育成」の目標をもとに、指標を設定したが、「友だちの前で自分の考えや意見を発表するのが好き・どちらかと言えば好き」と答えた児童は63%であり、指標を達成した。
- ⑤ 「外国語活動が楽しい・どちらかと言えば楽しい」と答えた児童の割合は89%であった。モジュールタイムの学習はどの学年の児童も楽しいと感じている。

次年度への改善点

- ① 大阪市経年調査結果において、問題分類別項目の活用が大阪市の平均を上回っていることから、話す・書く活動を重視した指導の成果が表れていると言える。さらに、成果を持続させていくためには、系統立った話し合いのきまりや型の指導、書く活動においては抵抗のある児童への手立てを共有していく場を持つなどの研修が必要である。
- ② 図書館コーディネーターとの連携をどのようにしていくのかが課題である。読書通帳は本の分類の項目を作ることで、自分の読書の傾向を知ることができるようにしていくことで、他ジャンルの読書を喚起することができる。読書通帳以外の取り組みも充実させて、より読書への意欲が高まるようにしていく。
- ③ 友だちの前で自分の考えや意見を発表に積極的な児童とそうでない児童に分かれている。しかし、友だちの説明を聞くとよくわかると答えた児童は92%にのぼる。考えを伝え合うことのよさは実感していると考えられる。発表に積極的でない児童が少しでも意欲が高まるように継続して指導していく。
- ④ モジュールタイムの15分の確保が非常に難しかった。行事等が重なると計画的に実施できないこともあった。学習指導になるべく支障をきたさない形での実施を模索していかなければならぬ。来年度の時間設定については外国語活動部で検討中である。

大阪市立堀川小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ① 「学校生活のきまり」を守って生活できるように取り組む。すすんであいさつできる児童を育てる。 ② 配慮をする児童に対する校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。 ③ 道徳教育の年間計画を作成し、指導方法の工夫・改善を行う。 ④ たてわり班活動を活発に行い、たてわり班長を中心とした活動の充実を図る。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【規範意識の育成】 「学校生活のきまり」を守っている児童の割合を上げる。 自分からすすんであいさつできるように指導する。 (マネジメント改革)	A
指標 「学校生活のきまり」を「守っている・どちらかと言えば守っている」の割合を80%以上にする。 すすんであいさつができたという児童の割合を80%以上にする。	A
取組内容②【人権教育の充実】 配慮をする児童に対する研修会を実施し、共通理解の場をもち支援の方法を話し合う。 (マネジメント改革)	C
指標 研修会や共通理解の場を月一回もち、具体的な支援の方法を話し合う。	
取組内容③【道徳教育の推進】 年間計画の見直しをすると共に、全学年で授業研究を年6回実施し、指導方法の改善をすすめる。 (マネジメント改革)	A
指標 研修会が「道徳教育の指導に役立った」という割合を70%以上にする。	
取組内容④【仲間づくりの充実】 たてわり班長を中心として、たてわり班での異学年交流を深める。 (マネジメント改革)	A
指標 「仲間とのふれあいが楽しかった」という児童の割合を70%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① あいさつ週間や歩行週間、さらに児童会のあいさつの見本を集会時に紹介したり、看護当番の担当があいさつ指導をしたりするなどの取り組みの結果、児童の意識が高まり、アンケートでは「学校生活のきまり」を「守っている・どちらかと言えば守っている」の割合は94%、「すすんであいさつができた」という児童の割合は90%だった。
- ② 月一回の共通理解の場が有効に活用された。SSWの活用も行われた。しかし、特別支援コーディネーターを核とした共通理解の場の設定は少なく、具体的な支援の方法を話し合い考えていくという点では不十分であった。また、保健室登校の児童の増加が見られた。
- ③ 計画通り実施された授業研究会・研修会を通して、どのように教科「道徳」の指導をすすめるかという見通しがもてるようになってきた。研修会が「道徳教育の指導に役立った」という割合は100%だった。
- ④ 週一回のたてわり班活動や全校遠足、秋の集会を通して「仲間とのふれあいが楽しかった」という児童の割合は90%だった。しかし、たてわり遊びのマンネリ化や班担当者と班長との連携は十分行うことができず、班長の育成は、十分にできなかった。

次年度への改善点

- ① アンケートの結果ではできているが、廊下・階段の歩行以外のきまりやあいさつなど日々の様子を見た時に、児童の意識と実態との差が見られるので、教職員で重点的に指導する事柄を共有し、継続指導していく。
- ② 保健室登校の実態やサポートの必要な児童だったのに取り組みにより改善されている児童の実態についても報告をし、支援の方法を全職員で考えていく。
- ③ 継続して研究をしていく。研究を深めるために、年度当初に全教職員で研究の方向を共有しておくことが必要である。
- ④ 6年生になるまでに全体遊びの経験が少なく、6年生の児童だけでは遊びを考えるのは難しい。来年度は1学期の間は担当者が遊びを班長に教え、2学期以降に班長が自立できるように指導していく。また、児童増加により一班あたりの人数が増えるので、班編成の検討が必要になる。

大阪市立堀川小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 <p>① 児童数の増加、狭い運動場にも対応できる体育科授業と体育的な取り組みを通して、すくんで体力作りに取り組む児童の割合をふやす。</p> <p>② けがの予防に努め、前年度の実績よりけがの発生率を抑える。</p> <p>③ 健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、残さず食べようとする意識を高める。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体力向上】 <p>なわとび運動の推進（進級表の活用）や体幹を鍛える運動（運動集会）などで、体力の向上をはかる。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革)</p>	A
指標 <p>「すくんで体力づくりに取り組んでいる」児童の割合を70%以上にする。</p>	
取組内容②【安全教育】 <p>保健指導や保健だより、掲示物やテレビ朝会での啓発により、けがの予防に努める。</p> <p style="text-align: right;">(マネジメント改革)</p>	C
指標 <p>けがの発生率を前年度以下にする。</p>	
取組内容③【健康な生活習慣】 <p>健康週間での残食に関する調査で意識づけを行ったり、食に関する指導や給食だよりによる啓発、給食委員会による呼びかけなどで残食しないことの大切さを訴えたりする。</p> <p style="text-align: right;">(マネジメント改革)</p>	B
指標 <p>学期に1回全校の残食数を調べ、1学期より3学期の結果を向上させる。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① なわとびカードを作成したり体幹を鍛える運動に取り組ませたりすることで意識づけはできたが、実際の体力の向上にはなかなか結びついていない面もある。ただ、3学期はかけ足集会や堀川マラソンなどに意欲的に取り組み、体力の向上が図れた面もあった。
また、「すすんで体力づくりに取り組んでいる・どちらかと言えば取り組んでいる」の児童の割合は、92%であった。
- ② 発育測定時の保健指導と掲示物、保健だよりを関連付けた内容になっており、児童の意識や興味関心を高めることができた。けがの発生率のみ目標を達成できていないが、児童数増加と運動場の工事による縮小を考慮すると、遊びの中でけがは起こりやすくなっている年度であった。
- ③ 1学期より3学期の方が残食数が増加しているが、3学期にはインフルエンザ等風邪疾患で欠席児童が多かった影響もあると思われる。健康調べでは、「残さない」という割合は増え、意識は高まっている。

次年度への改善点

- ① 次年度は体育でもＩＣＴを充実させ、「見本」や「自分の動き」が、映像としてすぐに見られるような環境を整えていく。
- ② 今年度取り組んだことは継続して取り組み、不注意と運動器に起因するけがを減らす。その方法としては、日々の個別保健指導、集団保健指導（発育測定時）、掲示物、ほけんだより、ロコモ体操、体幹を鍛える運動等のさらなる普及を行っていく。
- ③ 学級での残食0を目指す取り組みを委員会活動などで呼びかけ、残食が少ない学級を発表したり表彰したりするなどの工夫をする。また、1、2、3学期の統計を、欠席の児童をひいて集計するようにする。
- ④ 来年度児童数の増加に伴い、牛乳びんの返却場所や方法を改善する必要がある。

大阪市立堀川小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況
【視点 本校の特色と課題の克服】 ① 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する。 ② 充実した小中連携の取り組みを工夫する。 ③ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【地域連携の充実】 マーチングの取り組みについて、全職員・保護者・地域へ、練習等の進捗状況を発信し共通理解を図りながらより良いものをめざす。 (ガバナンス改革)	A
指標 「マーチングに取り組んで良かったと思う」の項目について、児童・保護者・教職員も「そう思う・どちらかといえばそう思う」が、80%以上になるようにする。	
取組内容②【小中連携】 事前の打ち合わせを行い、中学校入学に向けての見通しが持てるよう工夫する。 (カリキュラム改革)	B
指標 「中学校生活についての見通しが持てた」の項目について、対象児童の過半数が「そう思う」と答えられるようにする。	
取組内容③【環境整備】 普段から、校内を美しくする意識を児童・教職員ともに高め、計画的に環境整備を行う。年2回全校集会時に、たてわり班で一斉清掃を行う。 (カリキュラム改革・ガバナンス改革)	A
指標 「学校を美しくするために、清掃を頑張っている」という項目について、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合が70%以上になるようにする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 練習日程・進捗状況を発信し、多くの教職員に関わっていただき、当日を迎えることが出来た。学校アンケートでは「目的を意識して取り組めた」と答えた児童は86%、マーチング事後アンケートでは「取り組んで良かった」と答えた児童は83%。教職員・保護者へのアンケートでも良い感触の意見を多数いたいでおり、目的は果たせたと考える。
- ② 4月当初から、6年担任教諭や友だちの話・英語学習などを通して一年後の中学校生活を意識してきたが、生徒会の役員の話を聞く会で、より具体的なイメージを持つことが出来た。
- ③ 縦割り班での清掃は時間的に難しかったため、環境委員会児童による清掃の点検や雑巾のしごり方を低学年児童に教えに行くなどの活動を行った。職員による日々の声かけもあり、掃除を頑張っていると思っている児童が96%に達することができた。

次年度への改善点

- ① 今後6年生の人数が増えるため、衣装については補充の計画を持っている。楽器編成やスタイルについては、全職員に図りながら計画を進めていく。6年担任教諭の負担軽減のために、外部講師の増員や指導回数枠の拡大を望む。
- ② 6年生と中学との連携では、具体的な活動はどうしても3学期に集中する。年間の目標として小中連携を挙げるなら、全学年を対象にしての交流活動が望まれる。
- ③ テレビ朝会内での環境委員会の呼びかけも継続していきたい。ゴミを集めた後そのままになっていることがあるため、掃除後の点検を行うと共に、ほうきやモップの使い分けなど清掃道具の整備を行っていく。